

# 日本人初の栄誉賞

循環器内科の  
国際的権威

## 豊橋ハート センター 鈴木院長ら3氏

### 「カテーテル治療で世界をリード」

2人の日本人研究者のノーベル化学賞受賞に国中が興奮するなか、豊橋の名医らが国際的権威の学会から、「世界をリードし続けて来た功績は多大」と絶賛され、「医学界のノーベル賞」ともいえる栄誉賞を受賞した。日本人として初の受賞だ。受賞医らはその快挙をあらたまって発表することもなく、国内で知る人は少ない。

(星野のりこ)

栄誉に輝いたのは豊橋ハートセンターの鈴木孝彦院長(63)と、同院で鈴木院長の片腕となりスーパードクターとして活躍する加藤修氏(58)。この2人

に加え、鈴木院長と長年、研究・実践してきたが2年前に59歳で急逝した滋賀県の草津ハートセンター院長・玉井秀男氏だ。

鈴木院長らは、この栄誉に輝いたのは豊橋ハートセンターの鈴木孝彦院長(63)と、同院で鈴木院長の片腕となりスーパードクターとして活躍する加藤修氏(58)。この2人に加え、鈴木院長と長年、研究・実践してきたが2年前に59歳で急逝した滋賀県の草津ハートセンター院長・玉井秀男氏だ。

が続き、その席上で表彰式が行われた。玉井氏は遺族が代理出席した。主催者は「この3人はカテーテル治療の領域で世界をリードし続けてきた。特に難しい技術を要する複雑病変の治療に大きな功績を上げていく。今後さらに磨きをかけ活躍することを期待する」と高く評価。業績と名前が刻まれた立派なクリスタルトロフィーが贈られた。

3氏のこれまでの実績発表や治療現場の様子がスクリーンで紹介され、出席者全員が受賞者をたたえた。鈴木院長は「思いがけない受賞で驚いたが、私たちを支えてくれる大勢の皆さんのおかげと感謝。1つ残念なのは玉井先生を失ったこと。共に頑張ってきた、開業したばかりだったのに」と、喜びの中でも無念の表情を見せた。



受賞式壇上での鈴木氏(右)、加藤氏(左)と米ワシントン市内の会場



3氏に贈られたトロフィー